

函南区長会の皆様

令和元年年2月吉日

東京農業大学農学部

4年 中村善昭

指導教員 みたらいようぞう
御手洗洋蔵

函南原生の森公園に関する卒論研究ご協力のお礼とご報告

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は、函南原生の森公園に関するアンケート配布にご協力頂きまして、誠にありがとうございました。お陰様で貴重な情報を収集することができ、無事卒業研究を終える事ができました。

簡単ではございますが、研究の報告をさせていただきます。添付の報告書をご覧いただくと幸いです。末筆ながら、皆様のご多幸を祈念しております。

敬具

問い合わせ先

東京農業大学農学部 中村善昭

住所 〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737

Email : 40416113@nodai.ac.jp

函南町原生の森公園に対する地域住民の利用実態と意識分析

中村善昭・御手洗洋蔵

1. 背景と目的

原生林は、過去に伐採などの人為の影響がなく、ありのままの自然が維持されてきた森林を指す。本研究において調査対象地とした静岡県田方郡函南町では原生林を有する「原生の森公園」が整備されており、町民の保健休養の他、動植物の観察や学習・研究の場として利用されている。しかしながら近年では、倒木や道の荒廃により原生林の面影が失われつつあり、こうした現状に危機感を覚えた地域の住民が保全団体を結成し、下草刈りなどの保全活動を行っている。しかし、原生林保全のためには、ボランティア活動として直接関わる住民のみならず、その地域に住む多くの住民の関わり方も重要となる。そこで本研究では静岡県田方郡函南町の住民を対象に意識調査を行い、原生の森公園や函南原生林に対する町民の意識や関わり方を明らかにするとともに、今後の原生林保全の在り方について検討した。

2. 研究の方法

本研究では静岡県函南町にある原生林を有する「原生の森公園」について、函南町民を対象に設問式のアンケート調査を実施した。調査では、まず2019年8月11日に実施された「函南森づくり」イベントの参加者125名に調査用紙を直接配布、加えて同年8月16日に函南町役場にて行われた函南町区長会に出席した区長を通じて、全35地区の町民175名に調査依頼文ならびに調査用紙を配布した。すべての調査用紙は同封した返信用封筒にて郵送で回収を行った。配布枚数は計300枚で回収数は153枚（回収率51%）であった。調査内容は利用頻度、原生の森公園に対する意識、今後関わりたい活動等である。

3. 結果および考察

本研究を分析するにあたり、原生の森公園近隣に居住する住民を山間部住民（以下、山間部）、役場や商業施設等のある町中心部に居住する住民を都市部住民（以下、都市部）とし分析することとした。

まず、これまでの原生の森公園の利用頻度では、山間部と都市部ともに約60%の人がこれまでに4回以上利用していることがわかった。一方、都市部では利用頻度が1回

に留まっている人が12%認められた（図1）。

普段、どのように原生の森公園を利用しているか尋ねたところ、山間部では「山歩き等の散策」で最も回答が多く64%、次いで「草刈り等の保全活動」36%、「学校行事」8%の順であった。都市部でも「山歩き等の散策」で最も回答が多く57%、次いで「草刈り等の保全活動」22%、「清掃・ゴミ拾い」10%であった（図2）。

原生の森公園の機能に対する意識10項目について階評定評価で尋ねたところ、「そう思う」の割合が高い順に並べると山間部では「自然散策の場となる」、「大気の浄化」、「多様な生き物の住みかとなる」が上位であった。都市部では「自然散策の場となる」、「気分転換・リフレッシュの場となる」、「四季折々の風景を感じさせる」が上位であった（図3）。

今後、原生の森公園においてどのような関わりをもちたいかを尋ねたところ、山間部、都市部ともに「山歩き等の散策」の回答（各々49%、46%）が最も多かったが、次に回答の多かった「草刈り等の保全活動」では回答率に違いがみられた。山間部42%、都市部26%という結果であった（図4）。

図4で「保全活動」を選んだ人に、具体的にどのような活動に関わりたいかを尋ねたところ、山間部、都市部ともに上位3項目に違いはみられず「散策路の整備」、「草刈り・落ち葉掃き」、「森林の間伐」の順であった（図5）。

以上のことから、原生の森公園は函南町民に居住地区に関わらず広く利用されていることがわかったが、中でも山間部の住民からは複数回の利用が多くみられた。原生の森公園に期待する機能では、居住地区にかかわらず「自然散策の場」という文化的機能を最も期待していることがわかったが、それ以降の項目では違いがみられた。山間部では大気の浄化や生物の生息環境の維持といった地球環境の調整機能や基盤機能に期待を寄せており、都市部では気分転換・リフレッシュや自然景観の提供といった文化的機能に期待を寄せていることがわかった。今後、原生の森公園と関わりたい活動で最も回答の多かった項目は、公園に期待する機能同様、自然散策であった。原生林の保全活動については自然散策に次ぐ回答率を得たが、その割合は居住地区において相違がみられ、山間部

では40%を超えたものの、都市部では20%台に留まった。しかし、都市部では清掃・ゴミ拾いといった保全活動に準ずる活動にかかわりたいとする住民も16%いたことから、今後の保全活動への参加が期待される。このように函南町民は函南原生林を含む原生の森公園に対して、レクリエーションとしての利用が多かったが、近年の荒廃を鑑み、その保全にも関心を寄せつつあることが示唆された。

今後、どのように町民に対して原生林の保全に寄与するような活動を提案・企画するかが課題といえる。

謝辞 本研究を遂行するにあたりアンケートに協力いただいた函南町民の皆様ならびに函南町役場の皆様に、心から深謝いたします。

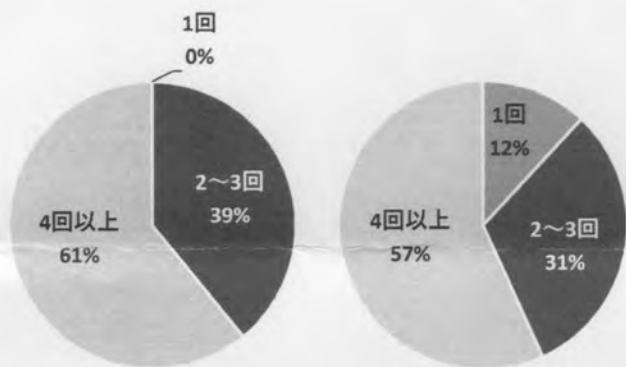


図1. 原生の森公園の利用頻度

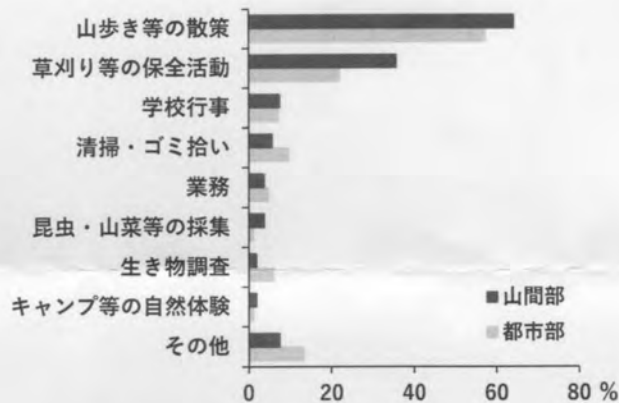


図2. 原生の森公園の利用方法 (複数回答)

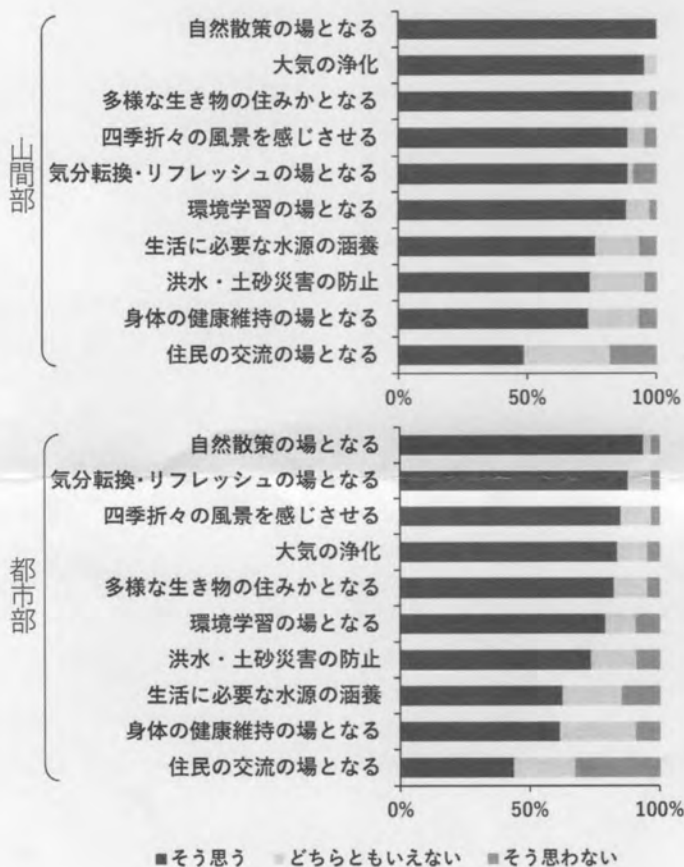


図3. 原生の森公園のもつ機能に対する住民意識

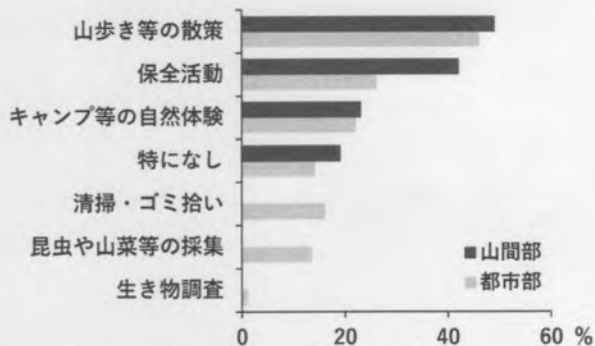


図4. 今後原生の森公園にて関わりたい活動 (複数回答)

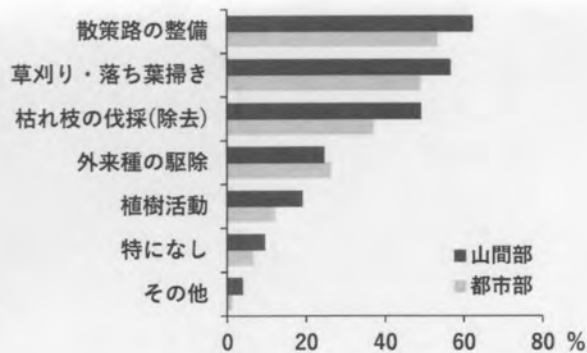


図5. 関わりたい保全活動の具体的内容 (複数回答)